

かいほつ

63号

學 六ツ美中学校 二年

米津 未希



▲廃油せっけんができたよ (岩津小)

岡崎市現職研修委員会
特別支援教育部会
平成22年12月8日発行



二つの集団意識を育む

岡崎市立上地小学校長

安藤 真好

秋の学芸会に、けやき学級の子たちは、二つの出番があります。一つは、恒例となっている、けやき学級と和太鼓集団「應呼」との協演であります。もう一つは、学年集団(原学級)に戻っての学年音楽や学級劇であります。どちらの舞台でも、けやきの子たちは、共演する人たちと共に精いっぱい演技することができました。これも、應呼の皆さんや原学級の仲間と心を通わせて、意欲的に練習をしてきたからだと思っております。また、家庭の方でも、音楽のテープを繰り返し聴かせるなど、劇や歌の流れを覚えられるように協力していただいたお陰であると思っております。

この行事だけではなく、けやきの子が「けやき学級」と「原学級」という二つの所属集団でいつも全力を出せるのは、常にその二つの集団意識を育むように努めてきたからだという気がいたします。けやき学級では、個別に系統的な学習を繰り返したり、教科を合わせた学級独自の学習をしたりしています。そこでは、少人数ゆえに、家族的な仲間意識が生まれます。一方、原学級では、技能教科の学習や給食などの時間に、多数の友達との刺激を受け、少し疲れるかもしれませんが、周りの子と同じようにしようとして頑張っています。けやきの子は、そのやり取りの中で、学年への所属感を高め、一緒に活動するのは当たり前という気持ちを持っていきます。

こうした子供たちの意識を育むために、けやき学級と原学級の担任は、きめ細かな連携を図っています。例えば、各学期の初めには、校長をはじめ関係者が協議して、けやきの子の指導について共通理解を深めます。そうした中で、原学級担任は、けやきの子を学級の一員として温かく迎え、配慮した働きかけをします。その担任の姿を見ていた原学級の子たちが、けやきの子たちへの多様なかわり方を学んでいきます。

けやきの子が二つの集団を喜んで行き来し、自分に合った方法で生き生きと学んでいる姿。原学級の子たちが、けやきの子とのかかわりから大切なことに気付く姿。そうした子供たちの姿に、学校における特別支援教育の推進の成果が表れているのではないかと思っております。

子どもと親の集い

参加者みんなで盛り上げた交流会

六ツ美・六ツ美北ブロック

六ツ美北部小 安藤 仁史

本年度は六ツ美北部小学校が会場でした。各校が遊びコーナーを用意し、前半・後半、係の子と遊びの子に分かれ、互いのコーナーを親子で訪問しました。フラフープ、ペットボトルキャッチボール、かめすくい、わなげ、紙ひこうき、玉入れゲームと、各学校が工夫を凝らした愉快的なゲームばかりでした。どのコーナーも、遊びも係も生き生きと楽しむ姿が印象的でした。

他にもふれあいゲームとして「かもつれっしや」「ビッグオセロ」など、大人も子供も夢中になって走り、笑い、楽しんだ一日でした。



▲だれ?じゃまをするのは!



▲どんどんひっくり返すよ!

楽しかった「なかよし交流会」

葵・城北ブロック

広幡小 内田 登志江

今年も子供たちが待ちに待った「なかよし交流会」が開かれました。葵中生のユニークで上手な司会で始まり、「かもつれっしや」、自己紹介、記念撮影、保護者の読み聞かせ、「作って遊ぼう」、「なかよし横丁」と続き、おいしいお弁当を食べて、「ふれあいタイム」で終わりました。「なかよし横丁」は、城北中「パスキャッチゲーム」、葵中「大きなオセロをひっくり返せ!」、広幡小「広パターゴルフ」、連尺小「たからポイゲーム」、井田小「どんぐりハウス」、愛宕小「ストラックアウト」と工夫を凝らしたもののばかり。ゲームも楽しく、手作りの景品も嬉しく、係の仕事も思いっきり頑張って…。ここに笑顔がいっぱいの交流会になりました。

三教研夏季研修会報告

美川中 市川 岸江

午前中は、西三河教育事務所特別支援教育指導員である島田強氏による講演がありました。時間をかけて保護者の訴えを聞くことの大切さを強調されたことが印象的でした。

午後は、分科会でした。

第三分科会一つ目は、食育と運動を

両輪とした「体づくり」の実践でした。体育科の授業では、器具の組み合わせを工夫して、運動の質と量を確保されていました。中でも、バランスボールと平均台や跳び箱のコンビネーションは面白いと感じました。複数の跳び箱を手際よく片付けるために、一つの跳び箱に同じキャラクターのシールを貼る工夫も参考になりました。

二つ目は、「買い物学習」の実践でした。硬貨の理解、金額の計算、店員とのコミュニケーションなど、買い物に必要なスキルを身につける単元が計画的に組まれていました。お金の学習に有効と紹介された七尾養護学校神佐先生のパソコン教材は、私もさっそく授業で試しています。自作の「お買い物すごろく」や「お金ぴったりカード」は、いくつもの試作を経たものだけに完成度が高く、子供の興味をそそるものうなずけました。

アイデア豊かな教材や教具が、児童・生徒の学習意欲を駆り立てることを再度実感した一日でした。

職場体験学習の思い出

南中 鈴木 達久

僕は十月五日〜七日の三日間「ハートケアビレッジなんぶの郷」へ職場体験学習に行きました。この三日間は自転車で通わなければいけなかったもので、自転車の特訓をして準備をしました。

「なんぶの郷」では、まず、元氣よくあいさつをして職場体験が始まりました。係の人から話を聞いた後、掃除の仕事をしました。モップでゴシゴシ床をきれいにしました。次におばあちゃんたちの前でラジオ体操をしました。一番の思い出は、夕食の材料の買い出しです。材料がとてもしんどくて大変でした。働くのは大変だと思いました。これから家のお手伝いをして、働くことに慣れていきたいです。



▲夕食の材料の買い出し

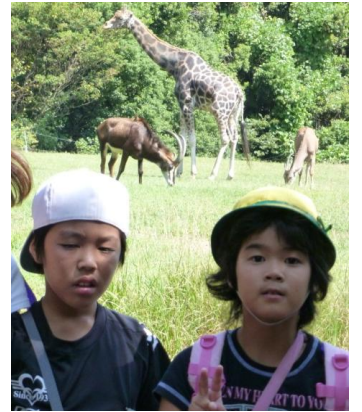


▲ハイ、ピース

豊畠小 今泉 拓斗
 とよはしどうぶつえんにつれて行って
 くれてありがとうございました。き
 ようりゆうのほねを見ました。大きく
 てびっくりしました。トラやライオン
 も見ました。とても楽しかったです。
 らい年も楽しみにしています。

豊畠小 扇田 朱理
 のんほいパークは楽しかったよ。ツ
 キノワグマは、ねていました。ライオ
 ンやトラも、ねていました。シマウマ
 が、見られてよかったです。ライオン
 ズクラブのおじさん、ありがとうござ
 いました。

園ライオンズクラブ招待 社会見学

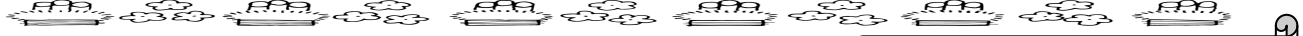


▲動物にいっぱいあえたよ

秦梨小 杉本 果南
 わたしは、社会見学の日が来るのを
 ずっと楽しみにしていました。ペンギ
 ン、ラッコ、キリン、ゾウ、トラ、ウ
 サギに早く会いたいなあと思っていま
 した。

朝、わたしは、先生と渉君と渉君の
 お母さんとよその学校の子たちといっ
 しょにバスに乗りました。バスの中で
 歌をうたったり、クイズをしたりしま
 した。

動物園は、とても広かったので、急
 いで歩きました。ホッキョクグマが目
 の前にとびこんできたのにびっくりし
 ました。ライオンがおこっていたのが
 こわかったです。キリンの背がめちや
 くちや高かったです。べんとうをみん
 なで食べておいしかったです。
 来年もその次も行きたいです。大き
 なバスで、みんなと行きたいです。



学級紹介

生平小学校



▲紙すきで作ったうちわとしおり

今年「かわせみ学級」では、紙すき
 に取り組んでいます。

一学期には、牛乳パックをミキサー
 にかけてパルプにし、それを使ってし
 おりやうちわを作りました。水そうに
 パルプを溶かし、紙すき用の枠を使っ
 てパルプを金網にすくい取ります。千
 代紙を散らして、きれいに飾りも入れ
 ました。作ったしおりは、交流学級の
 友達にプレゼントしました。うちわは
 家に持ち帰って使いました。

二学期には、古新聞をパルプにして、
 どんな紙ができるか試してみました。
 灰色の汚れたようなパルプでしたが、
 予想よりもきれいな紙ができました。
 この紙は、再び新聞紙
 として使われるそうで
 す。
 紙すきをしながら、
 リサイクルの勉強も
 できました。



矢作北中学校



▲ハンドベルの練習

矢作北中学校の特別支援学級は、二
 クラスで十一・十二組があります。二
 月もいないので少しさびしそうです。

十一月二・三日に行われた文化祭で
 は、ハンドベルの演奏を発表しました。
 曲は「ドレミの歌」と「きよしこの夜」
 です。毎年、ハンドベルの演奏に特別
 支援学級で取り組んでいるのですが、
 今年は初めてトレモロ奏を取り入れて
 しました。「きよしこの夜」は暗くて
 静かな体育館中にハンドベルが鳴り響
 き、幻想的でもありました。間違いは
 ほとんどなく、子供たちからは、達成
 感と終わってほっとした気持ちが伝わ
 ってきました。このハンドベルの演奏
 は、十二月に矢作北中学校の近くにあ
 る中園保育園へ訪問し、披露する予定
 です。
 欠席もほとんどなく、楽しく和やか
 な生活をしています。

突然の電話

元岡崎小 稲垣 繁美

三月に退職し、今はのんびりした生活を送っている。

七月半ば、発音が不明瞭で、よく聞き取れない電話が掛かった。やつと聞き取れた単語から、「お店に来て」と言っていることが分かり、家業がすし屋のS子の顔が浮かんだ。

「S子ちゃん？」と言うと、反応があった。卒業以来二十四年ぶり、突然の電話に驚いたが、お店に行くことを約束した。S子と同年年だったY子を誘うことにした。

八月八日、あいにくの雨になってしまったがS子の店を訪れた。中学時代と変わらない笑顔だが、ワンピースを着たS子は女性らしく見えた。程なく、Y子もご主人、子ども二人と共にやってきた。

S子のお母さん、ボーイフレンドも加わり、おすしをいただきながら近況を話したり、思い出話をしたりした。結局、S子がなぜ突然電話をくれたかは分からないままだったが、私を思い出してくれたことがうれしく、また訪れることを約束して、店を後にした。

城北中、福岡中、岡崎小、三校の特別支援教育に携わった。生きづらいつい世の中、みんな元気で日々を送っているだろうか。一人ひとりの顔が浮かんできた夏の一日だった。

交流・共同学習の紹介

学芸会「ニャーロ」

北野小 山中 祐輝

五年生のときは学年音楽でしたが、今年の学芸会では、五・六組で、「ニャーゴくみかんがりの巻」の劇をやりました。

ぼくの役は、「たま」です。悪いねこですが、やさしくなっていくお話です。登場の時は、交流音楽の近藤先生のピアノ演奏で「たまのテーマ」の曲にのって、悪そうな声で、思いつき歌いました。いつもより、力いっぱいできました。上手にできたので、うれしかったです。

交流学級の友達も、「ネズミ学級」の子どもたちや先生、ナレーターなどの役で参加してくれました。いっしょに歌ったり、リズム体操をしたりののが楽しかったです。

小学校最後の学芸会が終わったときは、さみしかったです。みんながんばれたことはいい思い出になりました。学芸会が終わってからもなかなかできて楽しいです。



▲ネズミ体操、始め！

教育相談センター

一月より竜美丘に、教育相談センターが新設されました。教育研究所で行われていた「そよかぜ相談室」の相談機能と、本宿にあった「ハートピア岡崎」の不登校児童・生徒の通所施設が統合し、臨床心理士とハートピア職員、登校支援員、教育相談員が連携して対応することができるようになりました。相談窓口を一元化することで、不登校や発達障がい、就学に関する悩みなど、子供に関するさまざまな相談への対応が、効果的になりつつあります。

また、交通の利便性などからも利用者が増加し、昨年度と比較して、相談件数もハートピアに通う児童・生徒も二倍になりました。



▲カウンセリングルームの様子



▲うどん作りに挑戦中

相談室やカウンセリングルームには、おもちゃや書籍、検査器具などが充実していて、幅広い相談に応じられるようになっていきます。また、通常学級における発達障がいのある児童・生徒への対応等の指導や助言を行う「専門家による巡回相談」が行われています。

「ハートピア岡崎」では、社会見学やうどん作り、デイキャンプなどが行われました。また、F1レーサーが来所して、お話を聞いたりいっしょに遊んだりもしました。



▲F1レーサーとのふれあい